

堺市の生物多様性にふれる冊子

堺いさものの通信



ニホンアマガエル

2024 夏号



アカハライモリ



マイコアカネ



トモンハナバタ



ベニゴマダラヒトリ

堺にすむ いきものたち

生物多様性とは、単に動物や植物の種類が多いということだけを意味するものではありません。地球上では、様々な環境の中で多様な生き物が食べる・食べられる・共生するなど、お互いにつながりをもって生きています。このように、多様な生き物がお互いにつながりをもって生きていることを生物多様性といいます。

ここでご紹介する写真は、すべて堺市内で撮影された写真です。WEBサイト「堺いきもの情報館」に市民の方などからご投稿いただきました。個性豊かな生き物たちや彼らのすみかを見て・知って、生物多様性を感じてみてください。**生物多様性とは身近なものなんですよ！**



イカルチドリ



ネブトクワガタ



ガガアタ



キノコゴミシ



ニホンマムシ



ポーベリア菌

いき

もっと もの知りになれる！

生物多様性のおはなし

- 有機農業を支え・支えられる -

近年の健康志向ブームもあり、農薬を使わない有機農業に注目が集まっています。今回は、有機農業と生物多様性のかかわりがテーマです。皆さんの予想通り、有機農業の結果として、生物多様性が豊かになることは様々な研究で報告されています。しかし、実はそれだけではなく、農薬の低減、さらには有機農業の実現には生物多様性が重要な役割を果たしています。

害虫による作物の食害を防ぐ手段として、農薬を使用することが一般的ですが、害虫以外の生き物への影響、害虫の薬剤耐性の獲得などのリスクも存在するため、天敵となる生き物を利用した害虫管理が注目されています。水田におけるウンカ、ヨコバイという害虫管理を例に説明します。水田周囲のあぜ道の雑草管理として、除草剤に頼らず物理的に除草することで、一帯の生物多様性が豊かになり、害虫を捕食するクモ類の生息数が増え、食害を低減することが可能になります。害虫による食害を一定許容する必要がありますが、豊かな生態系が保たれていれば、害虫が増加しても、それに応じて天敵の数も増加するため、害虫の大量発生は防がれます。このように生物多様性は、有機農業を支える存在でもあるのです。

「有機農業促進法」、「みどりの食料システム戦略」に表れているように、国も有機農業の拡大に向けて取り組みを進めており、生物多様性を活かした農業の手引書も数多く公開されています。そのため今後、有機農業がより身近なものになるはずです。皆さんもスーパーでは有機野菜を選び、有機農業を応援しましょう。

(参考) 農業に有用な生物多様性を保全する圃場管理技術 事例集
夢ナビトーク (農業と生物多様性)



堺市の生物多様性を考えるWEBサイト

＜編集・発行＞

堺市環境局 環境保全部 環境共生課

TEL : 072-228-7440 / FAX : 072-228-7317

E-mail : kankyo@city.sakai.lg.jp

ユーザーネーム

、 sakai_ikimono /



WEBサイト
トップページ



Instagram
アカウント